

府立中津支援学校 令和5年度「学校運営協議会」議事録（第3回）

日時	令和6年1月25日（木）10：00～12：00			
出席者	協議会委員	協議会委員	協議会委員	協議会委員
	川田 和子	大和大学 教授	奥井 光司	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	林 佳巨	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会 会長	富本 佳成	事務長
	中塚 磨由美	大阪北ライオンズクラブ	入福 濱 光	首席兼小学部主事
	園田 葉子	大阪音楽大学 教授	宇賀 功二	首席兼中学部主事
			富田 絵梨香	進路指導主事
傍聴人			今奈良 文美	リーディングスタッフ
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度 学校経営計画の評価（案）</li> <li>・ 学校教育自己診断アンケートの結果と分析</li> <li>・ 令和6年度 学校経営計画（案）</li> <li>・ 本校の進路指導</li> <li>・ 特総研研修成果報告</li> </ul>			
協議内容 の概略	<p>1 令和5年度 学校経営計画の評価（案）</p> <p>学校長より、令和5年度の学校経営計画の進捗状況の説明を行った。</p> <p>（委員より）</p> <p>学校教育計画3（3）ーイに関する学校教育自己診断での結果として、肯定的意見が78%とある。これは、毎週水曜日の全校一斉定時退庁日を設定していることで、78%の教職員が実際に提示退庁できているということですか。</p> <p>→ 78%は、学校教育自己診断（教職員用）の項目26についての指標であり、働き方改革全般に関する質問事項なので、定時退庁に限ってはいない。</p> <p>毎週水曜の一斉定時退庁については、今年度始まってから今まで5時30分頃には全教職員が退庁できている状態が続いている。</p> <p>2 学校教育自己診断アンケートの結果と分析について</p> <p>首席より学校教育自己診断にかかる学校アンケートの結果と考察について報告した。</p> <p>（委員より）</p> <p>大阪整肢学院でも保護者向けに患者満足度調査を実施しているが、回収率がいつも低い。実施方法としては、来院された方だけに配付している。学校では、どのように実施されているのか？</p> <p>→ Goggle フォームのQRコードを掲載した書類を送付している。</p> <p>（委員より）</p> <p>学校が寒いという否定的意見が多い。</p> <p>→ その日の気温に応じて、児童生徒の登校前から教室を温める等、可能な限り対策している。医療現場と学校では、設定温度等が異なり、また本校は府立学校として他校との足並みを大きく変えることはできない。登校時の服装等や準備物等、大阪整肢学院においてご理解を深めていただき、ご協力をお願いしたい。</p>			

3 令和6年度 学校経営計画（案）

学校長より、令和6年度の学校経営計画（案）についての説明を行った。

4 本校の進路指導

進路指導主事より、主に高等部での取組み（進路先での見学や実習、校内実習、小学部や中学部でのワークキャリア体験等）について活動の様子をモニターに映しつつ、説明を行った。

5 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育専門研修 成果報告

今年度本校より特別支援教育専門研修に参加したリーディングスタッフより、研修報告を行った。

研究協議のグループワークとして「障がいの重い子どもの算数科における評価基準の作成」をテーマに、チームで研究を重ね、発達段階が1カ月くらいからの発達段階における評価基準を作成することができた。その評価基準をもとにステップアップしていける学習課題を設定でき、そのことで、一人ひとりの実態に応じた指導目標や指導内容の設定が重要だということ再認識できた。また、この研修成果については、管外出張の報告会として教職員に発表する予定。

6 委員より意見、感想等

- ・ 今年には特に充実した取組みが多く、先生方の努力を感じることができた。進路の意思決定等、子どもたちにとって世の中に出ていく糧として、素晴らしい取組みであり、今後も続けていってほしい。特総研での研修は、日本全国の先生方との情報共有ができ、研修期間中は大変だったと察するが、本人だけでなく学校にも大きな財産となったと思う。また、学校教育自己診断（児童生徒用）の項目「周りの人々を大切にすることができる」の結果が100%ということにすごいと思い、感動した。
- ・ ドラムフェスタは、学生にとって大学では得られない学びの多い機会だった。継続はしていきたいと考えているが、次年度の事になるので調整が必要。
- ・ 次年度の「中津ブランド」の販売については、お知らせいただければ、地域としても応援、協力したいので遠慮なく声をかけてください。
- ・ 進路指導で頑張っている生徒の話について、日常生活の様子からでは想像しにくく、感心した。
- ・ コロナ禍においても地域や学校運営協議会の委員と繋がりを持ち続け、子どもたちのために、更にひろげていこうと様々な活動に取り組まれてきた3年間で、今の子どもたちの力になっているように思う。学校として攻めの姿勢をこれからも応援していきたい。